

# 釈迦堂川に「カワニナ」の放流を

## すかがわ自然をとり もどす会と 西袋二小

会員と四年生児童らが参加して

「カワニナ」一万匹を放流したもの

### カワニナ飼育場閉鎖で最後の放流に



携して、会員と児童が市内大桑原の飼育場でカワニナの養育を行い、五年間にわたり市ふれあいセンター裏を流れる釈迦堂川の水辺で放流を展開してきた。今回は河川工事のため場所を変えて行われ、また飼育場の閉鎖に伴いカワニナが今後養育できないことから最後の放流となった。

同会の現在の会員数は三十三人で、今年で発足二十九年目。

飼育場の代替え地が見つからないことからカワニナの養育ができず活動の継続を断念したもので、今回の活動を最後に会の解散を決めた。七月に解散会を行うと

いう。宗像会長は「活動が続けられず悔しい。当初に比べ釈迦堂川の水質もきれいになってきた。この川でいっつかたくさんのゲンジボタルが見られるようになってほしい」と話した。(最後のカワニナ放流)

# 釈迦堂川にカワニナ

## 自然とりもどす会と西袋二小児童が放流

流した。

すかがわ自然をとりもどす会(宗像洋会長)の会員7人と西袋二小の4年生15人は3日、須賀川アリーナ側の釈迦堂川にカワニナを放

流した。カワニナはゲンジボタルの幼虫がえさにする巻貝で、釈迦堂川への放流は6年目。とりもどす会が大桑

原の飼育場で育てた一万匹で、飼育所が無くなる事から今回が最後の放流となった。西袋二小は総合学習の中で、これまでに10年間取り組んできた。とりもどす会としては東山小から引き続き活動し29年目で終わる事になった。

児童らは、バケツを斜めにしてカワニナを川に放流。ホタルの光に思いをはせながら水に入って放流していた。宗像会長は「来月の7月に解散会を開き、その時点で今後を決める。後継者や場所が無いことなどを検討したい。釈迦堂川はきれいになったが、悔しいけど生き物を扱うのは大変なことです」と話していた。



カワニナを放流した西袋二小の4年生

すかがわ自然をとりもどす会(宗像洋会長)と西袋二小(吾妻敦校長)は三日、須賀川市文化センター前の釈迦堂川河川敷でカワニナの放流を行った。カワニナはゲンジボタルのえさとなる巻貝の一種で、同会では環境浄化の目安となるゲンジボタルがすめる釈迦堂川を指し、カワニナの飼育や放流などの活動に長年取り組んでいるもので、子どもたちに自然の大切さを伝えたいと同校と連

携して、会員と児童が市内大桑原の飼育場でカワニナの養育を行い、五年間にわたり市ふれあいセンター裏を流れる釈迦堂川の水辺で放流を展開してきた。今回は河川工事のため場所を変えて行われ、また飼育場の閉鎖に伴いカワニナが今後養育できないことから最後の放流となった。

同会の現在の会員数は三十三人で、今年で発足二十九年目。

飼育場の代替え地が見つからないことからカワニナの養育ができず活動の継続を断念したもので、今回の活動を最後に会の解散を決めた。七月に解散会を行うと

すかがわ自然をとりもどす会(宗像洋会長)の会員7人と西袋二小の4年生15人は3日、須賀川アリーナ側の釈迦堂川にカワニナを放

流した。カワニナはゲンジボタルの幼虫がえさにする巻貝で、釈迦堂川への放流は6年目。とりもどす会が大桑

原の飼育場で育てた一万匹で、飼育所が無くなる事から今回が最後の放流となった。西袋二小は総合学習の中で、これまでに10年間取り組んできた。とりもどす会としては東山小から引き続き活動し29年目で終わる事になった。

児童らは、バケツを斜めにしてカワニナを川に放流。ホタルの光に思いをはせながら水に入って放流していた。宗像会長は「来月の7月に解散会を開き、その時点で今後を決める。後継者や場所が無いことなどを検討したい。釈迦堂川はきれいになったが、悔しいけど生き物を扱うのは大変なことです」と話していた。